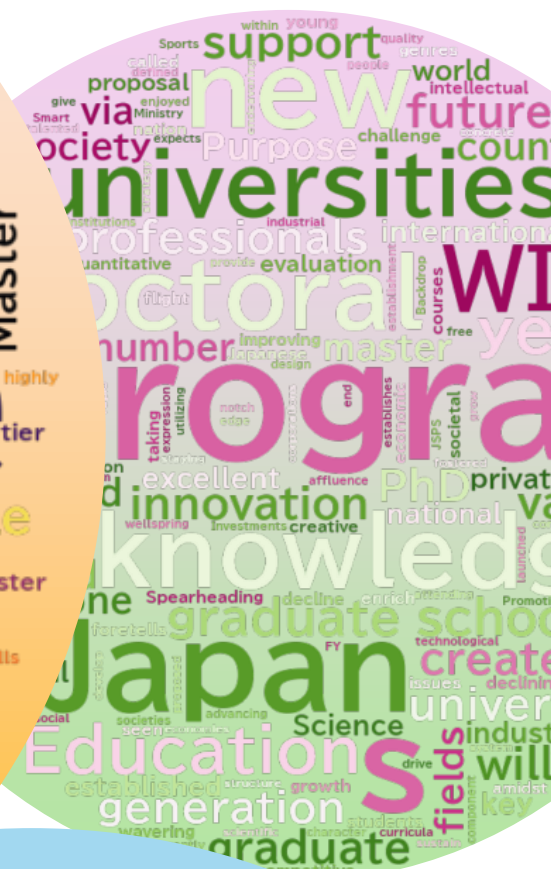
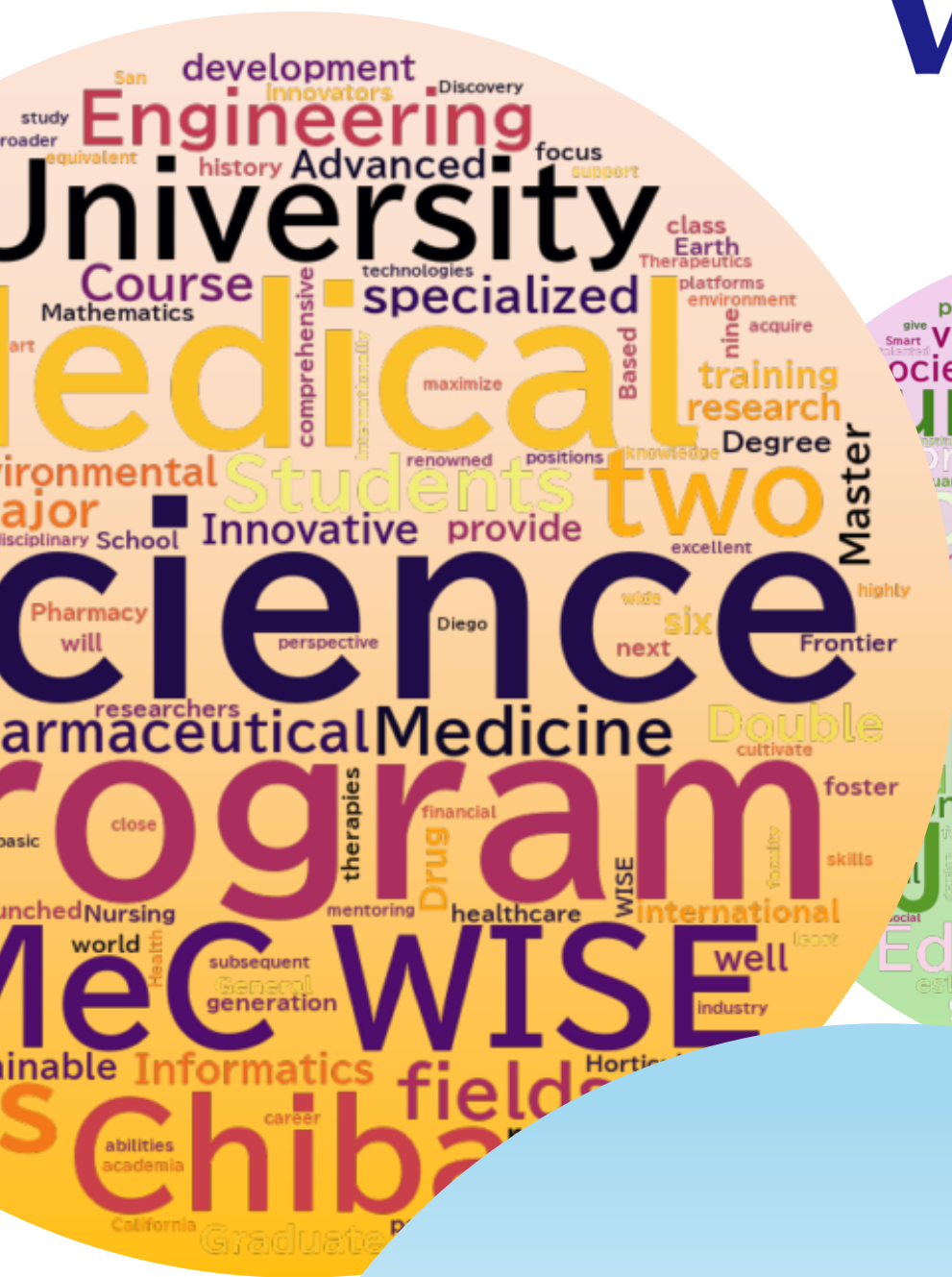




文部科学省 卓越大学院プログラム
革新医療創生CHIBA卓越大学院

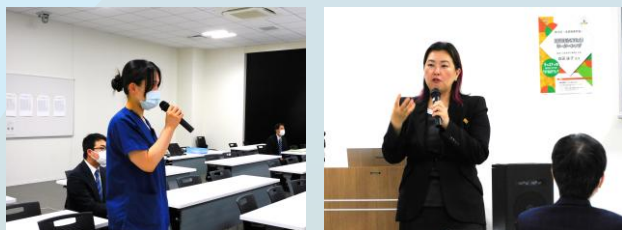
NEWSLETTER

Vol.5

SHOGO YASUDA
TOMOHIRO ISONO
LIU YIJING

このプログラムは、革新医療創生を担う卓越した『知のプロフェッショナル』を養成することを目指しています。医学をはじめ、9専攻の修士課程と、先端医学薬学専攻の4年博士課程を一貫した6年制の新しい大学院教育プログラムです。革新的な医療を創生するイノベーターとして、新たな医学の知の創出や社会実装に貢献できる能力を習得すべく、既存の枠を越えて組織されたクラスター制CHIBA教育システムや特別な教育カリキュラムによって、高度な専門性と俯瞰力、独創力、チャレンジ精神などを培います。

卓越教養特論



卓越教養特論では各研究分野で著名な先生方をお呼びして講演をしていただいています。自身の専攻にとどまらずさまざまなお話を聞くことで視野を広げることができます。

革新医療創生演習



各研究室を数日間かけて訪問し、最先端の技術や知見を得ることができます。思わぬところで自身の研究に生かされることもあります。

リトリート



グループごとに英語ビジネスプランの発表を行います。実際に起業した方のお話を聞く機会もあります。

実践英語



英語で自身の研究分野について発表することでプレゼンテーション能力や会話力が鍛えられます。

富田嗣子さん
リトリート担当



各チームが創意工夫を凝らした多彩なビジネスプランを発表し、特にユニークな発想でAIを活用したプランが印象的でした。講師の先生方から様々な指摘をいただき、より実践的な視点を深める貴重な機会となりました。また、本年は株式会社Varinosの桜庭先生にご講演いただき、研究成果を社会実装することの重要性や起業を通じた社会貢献の意義について、非常に示唆に富んだお話を伺いました。本リトリートの開催にご尽力賜りました関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。

我妻 叶梧さん
卓越教養特論担当



卓越教養特論を担当する上で、自分の興味ある領域で著名な先生方を直接お招きしてお話を伺える点、講義をきっかけに先生方の研究室を訪問するなどして他の分野の方との交流が行いやすくなる点、講義を2人で企画することで、自分の関心領域を広げる機会を得られる点の3点が魅力的でした。変化が多く、幅広いことに触れて独自の視点を持つことの重要性が増す今の時代において、先生方がこれまでのキャリアを通して培われた洞察を直接お聞きできたことは、私にとって非常に貴重な経験となりました。

卓越5期生の紹介(修士・博士)



五十嵐 康紘

修士・博士一貫課程
生体構造化学研究室(理学)
P糖タンパク質(P-gp)の高分解能解析を可能にする機能性抗体の創出



金木 礼仁

修士・博士一貫課程
薬化学研究室(薬学)
可視光アンテナリガンドを用いたサマリウム触媒還元反応の開発



安田 匠吾

修士・博士一貫課程
薬物学研究室(薬学)
光温熱療法が誘導する免疫原性細胞死に影響を及ぼす因子の解析



磯野 友宏

修士・博士一貫課程
薬化学研究室(薬学)
金属カルベン種を用いたインドール位置選択的C-H官能基化反応の開発



馬場 重典

修士・博士一貫課程
免疫発生学研究室(医学)
三次リンパ組織内におけるTRM細胞の細胞間相互作用解析



安島 菜々子

修士・博士一貫課程
実験免疫学研究室(医学)
末梢組織における制御性T細胞の組織特異性の獲得と恒常性維持機構におけるCD69の役割



池松 悠希

修士・博士一貫課程
薬理学研究室(医学)
腎尿細管における有機酸・尿酸トランスポーターOATsとジカルボン酸の輸送と相互作用



BOYRAZ Direncan

博士四年課程
実験免疫学研究室(医学)
Study of the mechanisms of maintenance and differentiation of stem-like CD8 T cells in the tumor microenvironment



荒野 貴大

博士四年課程
呼吸器内科学研究室(医学)
慢性肺炎症における気管支肺胞幹細胞の増殖および分化機構の解明



王 鴻萱

博士四年課程
免疫細胞医学研究室(医学)
悪性腫瘍に対する新規iPS-NKT細胞療法の開発



草刈 浩平

博士四年課程
免疫発生学研究室(医学)
肺神経内分泌細胞の2型炎症における機能解析



劉 奕婧

博士四年課程
イノベーション再生医学研究室(医学)
Establishment of a novel 3D model to study atherosclerosis using human iPSC-derived immortalized cells



河合 亮拓

博士四年課程
眼科学研究室(医学)
霊長類網膜の中心窩における幹細胞由来網膜シート移植後の網膜回路再生について



上 紗央理

博士四年課程
内分泌代謝・血液・老年内科学研究室(医学)
副腎皮質腫瘍における分子病態解明



魯 靖雨

博士四年課程
生化学研究室(薬学)
E3ライゲースMIB1依存的なグリオーマ(GBM)細胞多核化・薬剤耐性分子メカニズムの解明



張 崇傑

博士四年課程
薬物学研究室(薬学)
Development of mRNA enzyme nanomedicine to control tumor microenvironment and treatment of refractory peritoneal dissemination



貝塚 裕太さん 分子画像薬品学 令和6年9月修了

卓越大学院に4年半在籍し、メイン専攻では薬物動態の研究を、サブ専攻では電子顕微鏡の研究に携わりました。薬学と医学の異なる研究アプローチを学び、複雑な問題に対する多角的な視点を得ることができました。また、所属する学生たちの研究に対する熱意は非常に高く、研究の相談をすると一緒に考えてくれる環境がありました。このような仲間たちとの繋がりは、修了後も大切にしていきたいと思っています。最後に、研究をサポートしてくださった先生方やプログラム担当者の方々に心から感謝申し上げます。



山尾 恭生さん 救急集中治療医学 令和7年3月修了

私は元々ソフトウェアエンジニアリングが専門で、医療現場の課題を技術で解決する研究を志して卓越大学院に入学しました。革新医療創生演習においては様々な研究現場に実際に触れる機会をもらえたことは大変有意義でした。また、革新医療創生実習においては米国NVIDIA本社を訪問し、最新のGPUをつかった機械学習AIの技術を学ぶことができたことが、研究に大変役立ちました。サポートいただいた先生方、大学院スタッフの方々に感謝申し上げます。



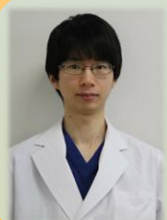
林 佑紀さん アレルギー・臨床免疫学 令和7年3月修了

私はこの4年間アレルギー疾患や膠原病の臨床を行いながら免疫学の研究に取り組んできました。研究では数多くの壁にぶち当たり思考が凝り固まってしまうこともありましたが、本プログラムの他研究室見学やサブ専攻、iMeC-WISEリトリート開催などを通して、幅広い視点から多くの気づきや解決の糸口が得られたと感じています。この場をお借りして、ご指導頂きました先生方やサポートを下されたプログラム担当者の皆様に感謝申し上げます。



本吉 究さん 免疫細胞医学 令和7年3月修了

卓越大学院の活動やプログラムを通して、幅広い分野へアクセスする機会を頂きました。とくに革新医療創生実習や卓越教養特論では医学薬学領域のみではなく、千葉大学や他の大学でも一線で活躍する先生との話を聞けることや、接点を持つのも魅力でした。今後プログラム生が増えることでさらに幅広い交流が可能になり、よりプログラムとしての価値が上がるものと思います。これらの機会を与えていただいた先生方、事務局の皆様にはこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます。



吉岡 正揮さん 脳神経外科学 令和7年3月修了

卓越大学院プログラムに参加する学生は志が高く、授業・実習や交流会などで学生同士のつながりを持てたことは貴重な経験でした。このプログラムの利点は、普通であればかわりあう機会がない他分野の研究室の先生方とも接する機会があることで、考え方の柔軟性を養うことができました。また、このプログラムを通して研究とビジネスの橋渡しも経験できました。ここで学んだことを生かして今後の研究活動に励んでいきたいと思っています。



中谷 一真さん 分子腫瘍生物学 令和7年3月修了

修士1年から5年間にわたり、本プログラムに所属し、多くの貴重な経験をさせていただきました。特に、海外の学会での発表が、私にとって非常に良い経験となりました。海外の研究動向を直接肌で感じ、日本との違いを目の当たりにし、大いに刺激を受けました。何よりも、ポストドク先の研究室との出会いに繋がったことは、私の中で非常に大きな出来事でした。卓越大学院プログラム担当の先生方、事務の方々、学生の仲間たちに深く感謝しております。ありがとうございました。



鈴木 紀江さん 薬理学 令和7年3月修了

修士・博士一貫課程の第1期生として過ごした5年間で、多くの貴重な経験を得ることができました。このプログラムを通じて、専門分野外の先生方や学生との交流を深め、視野を広げるとともに、異なる分野においても共通する普遍的な要素が存在することを学び、研究の幅が広がったと実感しています。最後に、これまで熱心にご指導いただいた先生方、並びに日々サポートをいただいた大学院スタッフの皆様、心より感謝申し上げます。